

浅野自治区の整備計画について。

平成20年度より行われてきた矢作川河畔林整備の平成23年度の対象箇所は、旭地区の浅谷町です。平成19年度矢作川河畔林整備行動計画に基づき行われたワークショップでの意見交換、現地での竹林伐採を通じて、地域の皆さまと行政との共働による整備計画の内容をお伝えします。

平成23年度の

河畔林整備について

紹介します。

矢作川河畔林整備事業

がわみ



第10号

平成24年3月



平成23年度の活動報告-①

河畔林整備の目標や進め方について
ワークショップを開催しました。

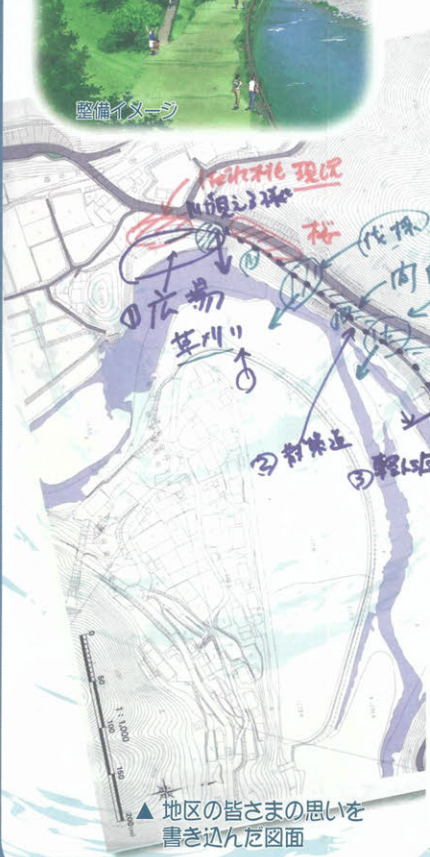
平成23年度は浅野自治区内の浅谷町で河畔林整備計画を話し合いました。
昨年2回のワークショップを開催するとともに現地を確認し、将来に向けての全体の方向性や、良好な河畔林整備に向けての全体構想を掲げ、地域の皆さまと行政が共通認識し、整備の目標を決めました。

○整備の目標

- ・ 繁茂した竹林を間伐し、道路から矢作川を望める景観とする。
- ・ 県道歩道沿いの竹を間伐し、日当たりの良い空間を確保する。

○平成23年度の目標

- ・ 旧道入口付近の竹を間伐・伐採し、道路から川の見える風景を取り戻す。



▲ワークショップの状況

平成23年度の活動報告-②

自分たちができるところは自分たちの手で!

・・・密集しすぎた竹の間伐・伐採を行いました。



▲旧道沿いの斜面に繁茂した竹の間伐風景。



▲作業は朝早くから始められます。



▲竹に遮られ見えなかった矢作川の川面。



▲間伐後は日の光が多く差し込みます。

繁茂した竹により矢作川を望む景観を遮られ、暗い空間となっていた県道沿いの竹の伐採が、地域の皆さまの手により行われました。

2月初旬のまだ寒い時期でしたが、地域が一丸となり多くの竹が伐採できました。作業を終えた後には、浅谷町の熟年会の方々がつくった豚汁と五平餅が振舞われ、河畔林整備という新たな活動に、地域の一体感が生まれた素晴らしい日となりました。

後日、住民では手を出せなかった急斜面の竹の伐採や、切り終えた竹の処分などは行政で対処し、整備の目標である道路から矢作川が望める景観を一部、取り戻すことができました。

将来的にはさらに広範囲で、密集しすぎている竹の適切な維持管理を続けていく予定です。

官民共働による河畔林整備を

行っています。



いただきます!
本当にお疲れ様でした!



▲作業後のひと時。お互いを労います。

「1m伐り」で竹が枯れる?

農文協の雑誌「現代農業」2010年3月号に、1mの高さで竹を伐って枯らす方法が載っていたので紹介します。12～2月の間に竹を地上1mの高さで伐ると、春になってから伐られた竹は盛んに水を吸い上げ、その後、根まで枯れてしまうそうです。枯れた竹は手で揺らして、根ごと掘り出すことができるそうです。「現代農業」2011年5月号には、この記事を読んだ読者の体験談が複数載せられており、モウソウチクやマダケ、ハチクなどの竹林でうまくいった事例が紹介されています。広がる竹林にお困りの方は、一度試してみられてはいかがでしょうか。



有間町の河畔林を

視察グループが訪れました。

旭地区の有間竹林愛護会は平成23年度に集落全戸のメンバーによって設立され、竹林の間伐を主体に毎月活動を行っています。市による作業道の整備も進んでいます。活動範囲の中にはハチクの竹林があり、そこで採ったタケノコを使って、小渡の「旭夢づくり研究会」が瓶詰め加工して商品名「夢たけのこ」として販売しています。ここに2月25日、なごや環境大学の講座「近自然を考える」の受講者二十数名が視察に訪れました。視察の方々は愛護会代表の原田さんのお話に熱心に耳を傾け、間伐が進んだ美しい竹林の風景に感銘を受けていました。そして「夢たけのこ」を購入し、タケノコ生産とセットになった地域の竹林づくりの活動にエールを送りました。



お問い合わせ

矢作川河畔林整備事業についてのご意見、ご感想等お気軽にご連絡ください。
豊田市 建設部 河川課
(計画担当：北村、伊藤)
でんわ:0565-34-6672 / F A X:0565-33-2460
(矢作川研究所：宮田、内田)
でんわ:0565-34-6860 / F A X:0565-34-6028

◆カワセミはコバルトグリーンの美しい鳥で、川辺や石の上からダイビングして、水中の魚や水生昆虫をとらえます。
◆「かわせみ」は、豊田市が行う矢作川河畔林整備事業において、カワセミのように川に接する機会が多い地域の皆さまの視点でとらえた意見をお知らせするために作成しました。

お知らせ

今回ご紹介した河畔林整備は、平成24年度も引き続き整備を行っていく予定です。みなさんと話し合った将来構想を目標として、官民一体となって取り組んでいきます。

